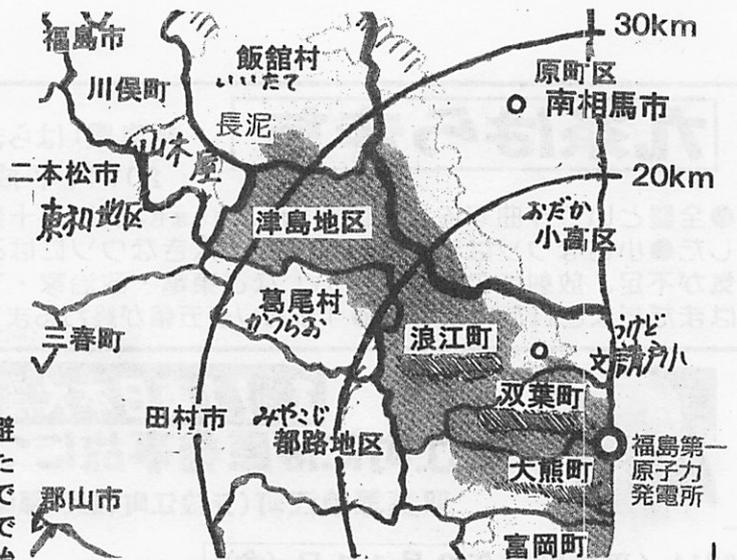


プロメテウスの畏 防護服

▲原発爆発を逃れ浪江町民約8000人は津島地区に避難。しかしそこには高い放射能が降り注いでいましたが、SPEEDIの発表も避難指示も一切なかったのです。『朝日新聞』「プロメテウスの畏」は、津島地区での町民の被ばく取材した「防護服の男」から連載が開始されています。(▲写真は2011年10月3日『朝日新聞』)



【避難時の小・中学校の状況】
新学期は、町の就学支援規則改正で対応

町民は2、3日で自宅に戻れるだろうと考えて避難したので、着の身着のまま所持金もない状況でした。そのため4月からの学校就学準備が大きな問題になりました。

カバン、運動着、ドリル、給食費などのお金の問題、慣れない土地での通学手段の問題等、保護者にとっても多くの課題を抱えての新学期でした。窓口での対応、電話での問い合わせなどで4月、5月は大混乱でした。

国、県では、就学援助制度の見直しが進まず、課題は全然解決しません。そこで、町の就学支援制度規則を一部改正し、予算を流用確保し、支援に努め、全国に避難した町民にも通知しました。

平成23年8月25日、浪江町は二本松市の旧川崎小学校に浪江小学校を、旧針道小学校に浪江中学校をそれぞれ開校。もちろん事前に、改修、清掃、表土剥奪などの除染工事も終えてのことです。

児童生徒は全国各地へ散らばって

平成23年4月18日(震災直後)の浪江町在籍児童生徒数
 ・小学校6校1,097名 ・中学校3校608名
合計1,705名 やがて震災後、この1,705名の児童生徒は、全国46都道府県、241市町村、749校に区域外就学し、不慣れた環境の中で学校生活を送り、卒業を迎えています。子どもたち、親たちのことを思うと、本当に胸が痛みます。

平成23年8月25日(2学期)、二本松市内に開校
 ・浪江小学校1年3名 2年2名 3年3名 4年3名
 5年8名 6年9名 計28名 ・浪江中学校1年10名
 2年11名 3年12名 計33名 **合計61名**

長瀬剛さんはじめ全国から様々な支援が

浪江町は、全国から多くの激励文、支援物資、義援金等の御支援をいただき開校できました。

特に①ジャニーズグループからの支援金、②福島民報社と中国民報社の教材備品の寄贈、③シンガーソングライター長瀬剛氏からは小学生20名を8日間の鹿児島招待、④チェコ政府は中学生30名を14日間の招待、⑤福島大学生による仮設住宅での学習支援、等々感謝申し上げます。ちなみに、長瀬剛さんの曲『カモメ』は浪江町の被災地を、また『ガーベラ』は鹿児島に招待された子どもたちを歌った曲で、大変感動的なものです。

＜2013年8月4日記・次回に続きます＞

【津島地区への避難の状況】

**政府からは何の情報もなく
 高い放射能の中で遊んでいた子どもたち**

3月12日から15日まで、つしま活性化センターに避難した約1,000人の町民の様子ですが、炊き出しの配給時は、外に並んで食糧をいただき、外で食べる人もいました。14日は小雪の舞う日でしたが、子どもたちは外で遊んでいました。(後日わかったことですが、実は津島地区は高線量の放射能に被われていたのです。)センターのトイレは処理容量がオーバーしたため、消防団員が外に手掘りの仮設トイレを設置しました。

私は3月28日まで津島支所に勤務し、他の職員4名と、常駐していた約30名の自衛隊員と一緒に未避難者の対応や救出にあたりました。職員は町内の地理が分かっているということで、自衛隊員に同行しました。私自身はこの間、浪江町内に7回出向きました。

3月15日(火) 4時30分 浪江町独自の判断で、二本松市と避難先の受け入れについて協議開始。

6時10分 東電第一原発2号機で爆発音が発生。

10時00分 浪江町長は、町全域に避難指示命令を出し、二本松市への避難を決定しました。

11時00分 政府は、半径20~30km圏内の住民に屋内避難指示を出しました。…浪江町への連絡は一切ありません。同日浪江町は二本松市東和地区の旧校舎や体育館等に避難所を開設。災害対策本部を「二本松市東和支所内」に移動しました。

3月28日(月)

私は、二本松市役所東和支所に移動し、「教育支援班」を命じられました。主たる業務は、避難児童1,097名、生徒608名の安否確認と名簿の作成、新学期の準備、避難先での就学の対応でした。

4月1日(金)

浪江小・中学校の全教員は、二本松市東和町の旧校舎・木幡第二小学校を借用し勤務することになりました。教育支援班にも5名の教員が配置され、学校再開等の準備にあたりました。

浪江町の小中学生の震災調査の結果、中学生2名が津波の犠牲になり、両親を亡くした孤児が3名、片親を亡くした遺児が8名と分かりました。